2026 年度

| 研究分野 | 授業科目名 | 科目責任者 |
|---|---|---|
| 生理系分野 | 高次脳機能・病態運動生理学特論Ⅰ・Ⅲ | 平岡 崇 |

| 開講年次 | 共通／専攻／選択 | 単位数 | |
|---|---|---|---|
| 1,2,3,4 | 特論Ⅰ：必須専攻,<br>特論Ⅲ：選択 | 特論Ⅰ：4（2/年）,<br>特論Ⅲ：1/年 | |

## 目的

（1）機能障害の診断・治療に関する臨床・研究についての体系的な知識を得る。
（2）機能障害の研究の計画・運用についての基礎作りをする。

## 授業到達目標

（1）神経系・運動器系の疾患に関する診断・評価・治療、あるいは神経心理学・生理学・解剖学・病態生理学に関連する英文誌の内容を的確に説明することができる。
（2）情報を取得して知識を高めることにより、他者の発表に対して積極的に質問やコメントを行うことができる。

## 授業計画

| 回数 | 月日 | 曜日 | 時間 | 担当者 | 区分 1 | 区分 2 | 授業内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 奇数週 | 火 | 8:00-9:00 | 平岡 崇 | 講義 | [抄読会] | 中枢神経系・末梢神経系・筋骨格系・呼吸循環器系の疾患ならびに障害に関して、他の医師が発表した英文論文内容に対して質問し意見を述べる。<br>[場所:本館棟５階カンファレンス室４] |
| 2 | 偶数週 | 火 | 8:00-9:00 | 平岡 崇 | 講義 | [抄読会] | 自ら中枢神経系・末梢神経系・筋骨格系・呼吸循環器系の疾患ならびに障害に関する英文論文文献を熟読し、その要約を紹介する。質問に対して的確に答える。<br>[場所:本館棟５階カンファレンス室４] |

上記以外の時間も利用し、積極的に当該研究領域の文献を熟読し理解を深める。

## 評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい提出する。
（2）１年間※で論文紹介または症例発表を２回行い、その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい提出する。
（2）１年間※で論文紹介または症例発表を２回行い、その要約２編を提出する。
ただし特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで、４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

## 課題（レポート等）に対するフィードバック

要約につき討論し添削指導を行う。

## 教科書

ISBN-9784307750523, 現代リハビリテーション医学（改訂第４版）, 千野　直一（監修）, 金原出版, 2017
ISBN-9784260050418, 標準リハビリテーション医学, 佐伯覚, 高岡徹, 藤谷順子編集, 医学書院, 2023

## 参考書

ISBN-9784263217306, 最新リハビリテーション医学（第３版）, 江藤　文夫・里宇　明元（監修）, 医歯薬出版, 2016
ISBN-9784260034609, リハビリテーション医学・医療コアテキスト, 久保俊一総編集 ; 加藤真介, 角田亘編集 ; 安保雅博 [ほか] section editor ; 徳永大作イラスト作画・編集, 医学書院, 2018

## 準備学習（予習・復習等）

（1）文献を熟読し、要領よく内容を説明できるよう準備する。英語能力により準備時間は異なるが、少なくとも準備学習を 1 時間/復習を 30 分以上を行う。
（2）必要な参考文献も収集し、内容を説明できるように準備する。
（3）発表後に質問や指摘事項もふまえて要約を作成する。

## 修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し、 仮説立脚・検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

## 注意事項・メッセージ

２年以内に出版された比較的新しい英文論文を熟読すること。